

果たすべき約束、届きたい想い。

石橋 冠 第一回監督作品

人生の約束

竹野内 豊 江口洋介

松坂桃李 優香 小池栄子 高橋ひかる (新人)

美保 純 市川実日子 立川志の輔 室井 滋

柄本 明 ビートたけし 西田敏行

監督：石橋 冠 脚本：吉本昌弘 音楽：吉川清之

企画：一室明成 セネラルプロデューサー：奥田誠治 エグゼクティブプロデューサー：門屋太輔 大井紀子 プロデューサー：佐藤賢博 黒内実司 中山秀一 石田順治 粟川優美 ラインプロデューサー：井上博巳
監督補：本多繁勝 撮影：山下 悟 水梨 潤 映像技術/照明：小林靖高 録音：瓜生公伸 映像：守屋誠一 美術：宮崎 洋 編集：宮本 孝 スクリプター：愛川由香 音響効果：下城義行 助監督：湯浅 真 製作担当：飯塚昌夫
製作幹事：日本テレビ放送網 制作プロダクション：5年D組 配給：東宝 ©2016「人生の約束」製作委員会 ① jmsci-no-yakusoku.jp ② 人生の約束 (G)
企画製作：MUGEN

2016年1月9日(土)全国東宝系ロードショー



「池中玄太80キロ」シリーズ

人と人がつながること——。誰もが惑うこの時代に巨匠・石橋 冠が贈る感動巨編。

日本中の家庭に感動を届けてきた巨匠・石橋 冠監督が長年の夢を銀幕に描く!

時代の空気を炙り出す鋭い着眼点と、それぞれの時代を代表する役者を惹き付けてやまない独自の演出術で、日本のテレビドラマ界に確固たる地位を築いてきた巨匠・石橋冠。「池中玄太80キロ」(80年)、「ラブ・レター」(03年)、「点と線」(07年)、「刑事一代」(09年)といった大ヒット作品を通じて日本中の家庭に深い感動を送り届けてきた監督が、その胸に抱き続けてきた「映画を1本だけ撮りたい」という強い衝動。今、ようやく探し求めてきたテーマを見つけ、豪華俳優陣と共にその夢を銀幕に描く機会に巡り合うことができました。主演には40代半ばを迎え繊細な演技で存在感を放つ竹野内豊。石橋監督の作品に初出演ながらも自身の代表作ともいえる演技を本作で披露しています。共演には撮影前から何度も新湊に足を運び、熱い信頼を寄せる石橋監督の作品に並々ならぬ意気込みで臨んだ江口洋介、そして石橋監督の代弁者ともいえる重要な人物を演じる西田敏行が豪華揃い踏み。その他出演者にも松坂桃李、優香、小池栄子、美保純、市川実日子、高橋ひかる、立川志の輔、室井滋、柄本明、ビートたけしといった、世代を超えた実力俳優が集結。2016年の始まりに相応しい全ての日本人の心に響く感動の人間ドラマがここに誕生しました。



STORY

会社の拡大にしか興味のないIT関連企業CEO・中原祐馬(竹野内豊)の携帯に、共に起業しながらも会社を追い出す形で決別してしまった、かつての親友・航平から、ここ数日、何度も着信があった。胸騒ぎを覚えた祐馬が航平の故郷へ向かうと、そこで待っていたのは予期せぬ親友の死だった。町内会長の西村玄太郎(西田敏行)に話を聞くと、病に冒され余命僅かだった航平は、最後に曳山につながりたいと故郷の土を踏んでいた。事態を飲み込めない祐馬が線香をあげようとするも、航平の義兄・鉄也(江口洋介)は会社を追い出したあげく、航平からの電話を無視し続けた祐馬を許すことが出来ず、殴りかかってしまう。故人を惜しむ場が荒れるのを防いだのは、航平の忘れ形見ともいえる娘・瞳(高橋ひかる)の落ち着いた

対応だった。かつての親友に子どもがいたことに驚く祐馬は、自分に何か出来ることはないかと瞳に聞くと、物憂げな瞳が重たい口を開いた。「西町から四十物町の曳山を取り返してくれますか?」。航平の故郷・富山県の新湊(しんみなと)にある四十物町(あいのちょう)では、前代未聞の曳山譲渡に町が揺れており、約束を反故にした新興の西町に、航平は最期を迎える瞬間まで抗議をしていたのだ。一方、東京では祐馬の会社が不正取引の疑いで強制捜査を受け、祐馬は会社や仲間だけでなく、全てを失ってしまうことに。一人になってしまった祐馬だったが、たった一つだけ残ったもの、瞳との約束を守るため再び新湊に向かうと、そこでは祭りがすぐ間近に迫っていた――。

「曳山につながる」とは

360年の歴史を誇る「新湊曳山祭り」では、祭りに参加して曳山(山車)を曳くことを「つながる」と呼ぶ。何十人もの曳き手によって大きな曳山が曳かれていくその姿は、力を合わせる事、魂を重ねることの素晴らしさに満ち溢れていて、つながったものには分からない感情が得られるという。

2016年1月9日(土)全国東宝系ロードショー

劇場内での映画の撮影・録音は犯罪です。
映画関係の情報は
www.eigakan.org
0120-550098
映画館に15分前到着を推奨します。